

◆帆苅謙治委員 三富委員の関連質疑になるかもしれませんが、私は予算の面で、もう少し詳しく聞いてみたいと思っております。それこそ平成22年度に大幅に予算が削られて、しかしながら結果として補正予算で何とか対応できたということでございます。さらに平成23年度は国の第3次、4次補正予算で、けっこう予算が来たおかげで、削られる前とほぼ同程度になったのではないかと、私なりの考えがございます。そしてまた、その反面、来年度予算に向けても、国費の確保と。幾ら新潟県だけで、これだけやりますよと言っても、国の予算がなければだめですから、そういうことからすると、その確保も、なかなか事前の段階では大変だと。こういうことを思うときに、一連のことについて、若干お聞きをしたいと思っております。

最初に、昨年度の国の第3次、4次補正予算によって、大幅削減前とほぼ同程度になったのではないかと思います、最終的なまとめはどうなっていますか。

◎坂井武徳副部長(農地部) 昨年度の一般公共事業最終予算についてでございますけれども、平成23年度の当初予算は、約236億円でしたが、委員御指摘のとおり、国の第3次、4次補正予算を積極的に確保したことによりまして、最終予算額は約330億円となっております。一昨年度の最終予算額が約320億円、平成21年度最終予算額が約330億円でございますので、委員御指摘のとおり、ほぼ同程度まで回復できたと理解しております。

◆帆苅謙治委員 県の財政当局もそれだけ協力したということだと思っております。したがって、農地部の姿勢といいますか、あるいは新潟県が農業県であるということで、知事を褒めてあまりその気になるといけませんけれども、農業に対する理解度が非常に大きいと思ったところでもあります。

次に、今年度の一般公共事業予算の当初割当額、結局は国がオーケーした分ということなのですが、これは幾らでございましたか。

◎坂井武徳副部長(農地部) 今年度の一般公共事業予算の当初割当額についてでございますけれども、当初予算額231億円に対しまして、割当額は約92パーセントの約210億円となっております。

◆帆苅謙治委員 そうすると、また今年度、あるいは来年度に向けて厳しい状況になると理解しております。当然、今の国の状況からすると、補正があると思っておりますし、なければおかしな話であります。これらを考えるときに、今年度の国費ベース、新潟県はこれだけありますよというアピールも含めて、先ほど、部長は国の動向等にもよくよくアンテナを張って、そしてアピールをしていくという話もお聞きしましたが、これらを含めて、今年度の予算を前年度並み近くに確保する。あるいは来年度もこのようにしていくということが必要

なのだろうと思っております。というのは、新潟県というのは、皆さんや委員のかたがたも御承知のとおりであります。まだまだほ場整備率が全国平均まで至っていない。農業大県でありながら、基盤整備、あるいは農業用施設の整備については、まだ後進県と言わざるをえない。こういうことからすると、やはり予算の確保が大きな問題になると思っております。部長は、全国で唯一、農地部がある新潟県に赴任されました。ここに来る部長は大体、優秀な若い人で、また本省に戻って偉くなるというパターンであります。多分、圓山部長もそういうかただと思っております。何とか新潟県のために、あるいは我々農業大県の農家のためにも、私が申し上げましたようなことで予算の確保が必要なのではないかと思っております。農地部長は赴任したばかりでありますけれども、予算確保のためにこうするのだというような決意表明がございましたら、お伺いして終わります。

◎圓山満久農地部長 今、委員御指摘のとおり、今年度当初予算と昨年度の仕上がりを見ますと、約100億円の差がございます。こういった予算額の差をきちんと埋めていかないと、現在、実施中の事業の進捗（しんちよく）も遅れる。それから、地元の皆様がたから頂いております新規の御要望についてもおこたえできないということになりかねませんので、予算の確保については、最大の使命だということで、いろいろな機会をとらえて、動いてまいりたいと思っております。

また、最近、個別補助金のほとんどが交付金になってきておまして、予算を頂く相手が農林水産省だけではなく、内閣府等にも広がってきておりますので、そういった観点も含めて、いろいろなチャンネルを使って、予算確保に全力を挙げて取り組んでまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。